

## 気になるところに行ってみる

あるとき世田谷区の地図を見ていたとき、北烏山にお寺が密集しているのに気付きました。あまりにも多いので何かの間違ひではないかと思って調べてみると、有名な寺町だったので。読者の皆さんは「世田谷区民なら常識だよ」とおっしゃるところでしょうが、私には衝撃の発見でした。はたして寺町はどのような所なのか？ということで、実際に行ってみました。



烏山仏教会のHPによると、関東大震災の時に、浅草・本所・荒川・築地・麻布そして、新宿、渋谷など東京市内（当時）にあった寺が、震災によって烏有と化し、復興のために区画整理がなされ移転を余儀なくされ、烏山の地に移転を始めたのは、大正末年から昭和初期の頃。当時の烏山の地域は、畑・山林などの荒地でしたが、まず道路が幅広し、次々に新しい本堂、庫裡が新築され、境内は整備され、作庭がなされていったそうです。そして今日、歴代住職方の寺門復興に捧げた労苦は実り、樹木は大きく育ち、日本的な優美さを持つ寺院建築と調和して、いつしか26のお寺からなる「小京都」と言われるほどの緑と静寂の漂う街並みをつくりだしました。交通アクセスは、京王線「千歳烏山」下車徒歩10～15分。千歳烏山の賑やかな商店街を抜けると徐々に閑静な住宅街になり、中央高速の下をくぐるといきなり「小京都」の街並みが広がります。バスもあるようですがここはひとつのんびりと歩いてみてはいかがでしょうか？



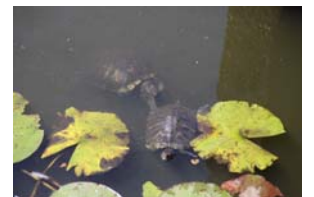
### 妙壽寺

は、寛永8年開基日受上人が江戸谷中清水本町に、妙感寺と称し開創。その後、猿江稻荷神社の別当となり寺号を妙壽寺と改めた。大正12年の関東大震災で、本尊祖師尊像を残して焼失。翌大正13年に当地に移転し、昭和2年寺観が整いました。史跡として、心学者中澤道二墓所、関東大震災で穴のあいた、釜六・太田近江制作の梵鐘などがあり、また客殿は明治期鍋島侯爵邸です。



### 高源院

の開基頼元は久留米21万石の英主であったが、晩年菩提寺祥雲寺輪番怡溪大和尚の高徳を慕い、仏道に帰依し江戸品川に一寺を創立、怡溪和尚を招いて開祖とした。これが高源院である。その後昭和11年当院復興計画の下、現在の地に移転。敷地内に一大泉地をなし、その中央に浮御堂を建立し、弁財天を奉安した。



### 幸龍寺

は、徳川家康公が浜松在住の頃、祖母正心院日幸尼が玄龍院日俣に帰依した際に、家康公が「しんどう」と云う所に天正19年（1591年）一寺を建立、妙祐山幸龍寺と号したのが起源です。それ以来、寺は家康公と共に移建され、大正12年に現在の烏山に、書院、大玄関、鐘楼を構営。あの、さざれ石もあります。



### \* てくたく刀サッチ #28 「慈眼寺」 瀬田 4-70 \*

慈眼寺は、真言宗智山派、喜樂山教令院と号し、開山は法印定音、開基を長崎四郎左工門によります。寺伝では、徳治元年（1306年）法印定音が仏の教えを説いて各地を回っている途中この地を通ったとき、崖の中から発掘された降三世明王を里人から譲られたので小堂を建てて祀りましたが、後に、長崎行善の弟が崖下の小堂を現在の場所に移し、大日如来を本尊としたとあります。本尊の胎内には長崎家の系図があるそうです。





# 稱往院

蕎麦屋の屋号「〇〇庵」発祥のお寺  
天明飢饉の折、稱往院の末寺であった道光庵  
の庵主は、社会事業の一環として蕎麦を振る  
舞いました。その蕎麦は大変評判となり、そ  
れ以来その評判にあやかろうと「庵」の付く  
屋号を用いる蕎麦屋が多くなったということです。



# 妙祐寺

1625年に土中から  
発見された阿弥陀  
仏像をご本尊とし  
ている。インド様式  
の本堂が珍しい浄  
土真宗のお寺。



# 多聞院

は、歴世三百数十年ほど経った寺であり、もとは、新宿駅から程近い甲州街道に面した所にありました。昭和20年5月不幸にも太平洋戦争の戦火を浴びて、本堂など余さず灰に帰したが、昭和二十四年に東京都が計画、実施した新宿駅周辺の復興を目指す区画整理事業の要請を受けて、現在の寺町に移転しました。釈迦一代記の石碑や延命地蔵、仏足石等があります。



他のお寺も詳しく紹介したいところですが、紙面の関係上写真だけのご紹介とさせていただきます。



順正寺



西蓮寺



常福寺



玄照寺



宗福寺



永願寺



源良院



妙揚寺



存明寺



永隆寺



専光寺



浄因寺



善行寺



萬福寺



妙善寺



源正寺



常栄寺



入楽寺



乗満寺



妙高寺

鳥山寺町には26のお寺があります

# それ行け!! アサッチ



# ご自宅まで配達します! 2015年 アサッチのオススメ本! 9月

## 下流老人

## 一億総老後崩壊の衝撃

著者: 藤田 孝典 朝日新聞出版刊 定価: 821円(税込)

### ◆主な内容◆

年収400万でも、将来生活保護レベル!!  
今、日本に「下流老人」が大量に生まれている。そしておそらく、近い未来、日本の高齢者の9割が下流化する。本書でいう下流老人とは、「生活保護基準相当で暮らす高齢者、およびその恐れがある高齢者」である。現在すでに約600万人が一人暮らし、うち半数は生活保護レベルの暮らしをしているが、これは「他人事」ではない。日本の老後は、もはやかつてのものから一変した。間近に迫った日本の「老後総崩壊」に、どう対処すればいいのか? どんな自衛策があるのか?

